

ふれ 柳 桜 あい 橋 梶 筆 松 けい 格

さとしつりかきあつたをんすしそぬを
つむるをいぬ算おち代のをは
うしつとさひんすみきを喜板れ
いとさう勢れるを——かき
いけきぬをさけけるあははく
つゆもさうの良法をさきかき
うつあけてかくるあふいのあつ
二葉あふんそちりもつるあま
うしつとのいさしん神のさういも二
ま——くむあふぬの——うま
ねこつりあつたゆかたりけり
さしすちかつりいけのあさぬ
みふん小屋のあふぬとこの葉を
と程くありかこたむし
あふつ子さきんともつたおろり也
ぬのさうらうれえいもあつ
えれあふぬあつこのぬくも月れ
かろさあつさきさた子ほい
いぬさう——いぬあまけし山かろを
かろめりけり——れありあぬ
あまのあつたの浦さるゆくれと
あまのあつたの浦さるゆくれ
とさまもつたかろさつらんいらまの
さゆきのあつたの浦さるゆくれ

春聖 久敬 正辞 祐之 八子 祐命 敏成 幹文 一周 由清 礼好 豊頼

文久三年癸亥新春

披園花板